

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|---------|------------|
| 事業所番号 | 4071600979 | | |
| 法人名 | 株式会社 吉兆 | | |
| 事業所名 | グループホーム ふきのとう | | |
| 所在地 | 福岡県久留米市荒木町白口2343-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月23日 | 評価結果確定日 | 令和5年12月25日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン |
| 所在地 | 福岡県直方市知古1丁目6番48号 |
| 訪問調査日 | 令和5年12月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体でも、すばやさ、ユニーク、学習を大切にしており、事業所内でも無理なのでは無いかと考えていた、ペイペイドームに利用者と共に野球観戦に出かける等の実施が出来ました。また、運営推進会議も以前はコロナ禍という事で書面での開催をしていたが現在は対面での開催も実施しており「今度は、大相撲ば見せに連れて行ってやらんね」などの地域の声も直に聞く事ができています。また、法人での研修として身近に起きる事柄(介護事故や救急搬送の仕方)等を振り返り学習できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内で最初に開所した地域密着型サービス事業所であるグループホームふきのとうは、運営者の中学や高校の同級生から親族が世話になったと謝辞がある程、地域の信頼を得ている。日々の状況をチャットで共有しながら、書面で家族の意向を伺い、担当者会議に家族だけでなく後見人や保佐人も出席され、現状に即した介護計画作成に努めている。クラスター後既往症の悪化で逝去された方もあり、看取りを行うホームとして、全家族に改めて急変時の意向を聞き取っている。毎月家族便り而入居者の暮らしぶりを報告し、敬老会後の家族会は8名の参加があった。校区公民館で開催した前回の運営推進会議には家族や地域代表など15名の参加があり、参加者から入居者紹介の話もあった。素早さ、ユニーク、学習を法人理念に掲げる系列事業所の協力で野球観戦が実現し、入居者から「こんな嬉しいことはない」と感想があるなど、理念の「人が人として生きる喜びをこころに感じながら共に暮らせる時間と場づくり」の実践に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

 ユニット/
事業所名 1F/グループホームふきのとう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関やフロア入口等に理念の貼りだしも行っており、いつでも確認振り返り等が行えるようにしている。 日々実践に繋げるようにしている | 玄関などの目に付きやすい場所に開所以来の理念を掲示している。入居者の思い出の話を聞くのが楽しいと話す今春入職した職員から、共に暮らす場づくりが伺える。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 毎年参加していたが、コロナ禍となり開催されていなかったが今年再開された為、参加する事ができた 近くの中学校の職場体験等も率先し受け入れている | 久々に地区の神輿が巡行し太鼓が鳴り響き、職場体験した中学生からは、「介護のイメージが変わった」との感想があった。運営者の中学や高校の同級生から親族が世話になったとの謝辞は、市内で最初に開所した地域密着型サービスならではのエピソードである。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や家族会等での報告を行い質疑応答等で理解を得てもらえる機会を持っている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 色々な意見を頂き、今後のサービスに参考にしている。ご利用者の方にも参加してもらい、ご利用者の声も取り入れるようにしている | 11月の運営推進会議は校区公民館で開催し、家族や民生委員、地域代表など15名もの参加があった。入居者紹介や行事、職員研修、10月のクラスターなどを報告し、参加者から入居者紹介の話もあった。議事録は玄関で公表している。 | 毎月発行の家族便りに、運営推進会議の開催や会議内容、会議録公表場所などの掲載で意見の表出を促し、さらなる会議活用を期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 日頃より、連絡相談等を行い 伝えるべき案件事案等の報告等も行っている | 担当部署に居室情報提供を継続し、クラスター発生時は状況を報告するなど、日頃から連携に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的な研修の実施を行い 毎月のカンファレンスの中でも話題に取り上げて身体拘束ゼロに向けて取り組みをおこなっている | 毎月のカンファレンスで適正化に取り組み、法人全体の研修会で講師となった管理者は、「自分がされて嫌なことはしない」と自分に焦点を合わせた話をしている。フロア入口の戸につけた鈴の音で出入りに気を配り、「待って下さい」には納得できる説明をしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修やカンファレンス等があるごとに話題に触れ、日々のケアにも確認を職員間管理者含め行い実施出来ている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 定期的に研修等の実施もできているが、理解のまでは乏しく思えるため、今後も学習して行くようにする | 家族が遠方などで成年後見制度を活用し、保佐や後見を受けている入居者もあり、担当者会議出席をお願いしている。今後も日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修会で其々の内容や違いを学習する予定である。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約には、必ず管理者ケアマネの説明をおこなうようにしている。 質問等は入居前にしっかり受け契約等の説明も都度都度行っている | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ケアプランのサイン等の際に積極的に家族からの要望等を聞き取るようにしている 遠方で来られない御家族には電話や書面での聞き取りを行っている | 個々の暮らしぶりなどを毎月家族便りで報告し、意見表出の機会としている。敬老会後の家族会には8名の参加があり、状態の変化に驚いたと話す家族もあった。次回は重要事項説明書で看取りについて話す予定である。 | 運営に関する意見を伺うために、家族便りなどで、系列事業が受託している給食の献立や嚥下に応じた食形の紹介を期待します。 |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関しては提案等は見られないが、職員が発言できる機会は毎月のカンファレンス等である | 毎月のカンファレンスは日勤後開催し、手当を支給している。冷蔵庫や炊飯器が買い替えられ、足が冷えるとの訴えに湯たんぽを購入している。管理者が出席する月1回の法人会議は、系列事業の運営や課題を共有する機会となっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 就業環境の整備には努めていると思う 定期的な昇給等は無いが、各種手当は充実している | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 年齢や性別等の理由での排除はない しっかりと意見を聞いてくれている | 夜勤専従も含め、'20代～60代の男女の職員が夫々の状況に応じて勤務している。本人の意欲や協調性を重視し、半年の試用期間を設けている。初任者や実務者研修参加、資格取得を推奨し、シフトや休みの希望が叶い、休憩室で昼休みをとっている。毎月法人研修が開催され、今春入職した職員はICFの概念や福祉用具のオンライン研修に参加し、日々OJTを受けている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 研修等の開催を行っており、人権、プライバシー保護に関する研修等もうけ十分に理解している | 法人主催のオンラインや対面での研修で虐待や人権に関する研修を実施している。外部のジョブコーチ研修に参加した管理者は、できる事に目をむける就労支援を学ぶ好機となったと話している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJT、Off-JT研修の開催を年間スケジュールとして法人内で計画し実施しており、全職員で学べる機会を設けるように努めています | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 月に1回法人内での対面勉強会を設けており 他の事業所との情報交換等を行い サービス向上に努めている | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居直ぐはもちろんの事、入居後も日々ケアの中での利用者からの声には耳を傾けるようにし 思いや要望を聞き取り チャットを利用し情報の共有を行うようにしている | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 毎月家族だよりを送付行き、日々の近況状況をお知らせしている。また、御家族からは電話や面会時等に声かけ行き要望や意向について確認行うように努めている | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前に困り事や要望は聞き取りを行うようにはしている。また、どのような支援が必要かなど常に確認していくように努めている利用者や御家族が同一希望とは限らない為慎重に聞き取り等実施している | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の自己決定を念頭におき、利用者の困り事と出来る事の見極めを行いながら、出来ることを取り上げないように努めている | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的な家族会の実施実際にカンファレンス等にも希望があれば参加して頂き、御家族の意向も聞き取りながら共に一人一人の支援を思案して頂くように心がけている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍でもあり、なかなか面会等の緩和をしていても感染者が発生すると中止せざるを得ない事もある中で、会話やお手紙を書いて頂く事で関係性の維持に努めるようにしている | 昨今の状況からマスク着用や玄関での検温や手指の消毒をお願いしているが、法人として面会に制限を設けず、家族との外出や外泊を支援している。管理者は家族の感染防止対応を信頼していると話している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | まだまだ、感染症のリスクもある為パーティション等の使用も継続しながらレクリエーションの参加であったり家事作業を一緒に行う事で、入居者同士の関わりであったり他者との関わりをもっているように支援することに心がけている | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 御縁のあった関係は大切にしながら、サービスが終了したとしても、お互いに相談したりされたりしやすい関係性を継続できるように努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃から思いや希望を話しやすい雰囲気作りは意識しており、聞き取りの情報等はチャット等を使用しプランの作成にも役立っている | 全入居者の入居に至る経緯などや日々の状況をチャットで共有し、基本情報やアセスメントシートを整備している。時に強い口調になる方もあるが、その時の思いに留意し支援に努めている。 | アセスメント結果を前回のアセスメント票に印字を変えて記載することで経時的変化を共有し、さらなる思いや意向の把握を期待します。 |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や習慣等はチャット内でいつでも共有できるようにすると共に、常に御家族からの情報等は共有して行くように努めている | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の過ごし方や状態変化等は常時チャット内で報告するようにしている。また、要検討事項等に関してはその都度朝の朝礼時に行う事もあり、そのことをチャットにて共有するようにしている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に2回のカンファレンスの開催等もあり適時、話し合いを行いながら御家族の意見の傾聴や実際に参加もして頂き計画するように努めている | 月2回のカンファレンスで夫々の心身の状況を話し合い、書面で家族の意向や担当者会議出席を伺っている。出席された後見人と保佐人から、「自分は代弁しかできない。本人の意向を大事にやりたい事をさせてあげてください」との言葉を頂いている。 | 重度認知症デイケア参加もあるため、アクティビティ内容や参加状況など組み入れた現状に即した具体的な介護計画の作成を期待します |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の気づきや工夫等はチャット内の共有するようにしている 常時職員全員が情報の共有することはもちろんの事、異変や気づき等も情報共有するようにしている | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の状況に応じて、現状の必要なサービスの提案や話し合いを行いながら御家族にも相談等行いながら実施出来るようにしている | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍になるまでは地域の行事等も参加を積極的に行っていたが感染症等も考慮し実施出来るように努めている | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に2回の訪問診療と体調に応じた相談等も密に行いながら、必要時には御家族の意向確認等も行いつつ安心して医療を受けられるように支援している | 4ヶ所の協力医療機関と連携し、月2回の訪問診療を支援している。時にはかかりつけ医に皮膚の状態を診てもらい、早期治療に繋げている。本人や家族の希望時に訪問歯科受診を支援し、日々の口腔ケアに活かしている。 | |
| 33 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日の訪問看護より医療連携にあるため、毎日関わりがあり状態の変化や気づき対応策の提案等の適切なアドバイス等も受けられるようにしている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ソーシャルワーカーや医療従事者、家族等が情報共有行い、退院後も訪問看護等の協力もあり病院との情報共有が密にとれるように努めている | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 食事の摂取が厳しくなった状況は御家族へ都度報告するようにしている。御家族の意見や気持ちに寄り添う事ができるように可能な限り検討し実施できるように努めている | 医療と連携しながら3名を見送り、家族の希望で急遽搬送した病院で逝去された方もある。全家族がホームでの看取りを希望されているが、クラスター後既往症の悪化で逝去された方もあり、看取りを行うホームとして、全家族に改めて急変時の意向の聞き取りを行っている。 | 家族会で予定されている重度化、緊急医療体制や看取りに関する指針を明記した重要事項や終末期の兆候などの説明が、本人らしくより良い最期を迎えていただくきっかけになることを期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内でも研修の実施を行っており、毎月のカンファレンスの中でもマニュアルの整備等も行っている | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法人内での研修の実施は行いつつ、各事業所内でも、昼想定、夜間想定等の避難訓練の実施を行い地域等の参加協力依頼も再開していきます | 法人全体で救急搬送時の声かけや迷った場合のアプリ検索方法等を研修し、今月は消防署の立ち合いでの訓練を予定している。避難した入居者の見守りに地域の協力をお願いしている。保険者や法人主催のBCP策定研修会に参加し、ホーム独自のBCPを策定予定である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 場合によっては、慣れ親しんだ方言での会話や声かけを行う事もあるが、基本的には敬語や尊敬語での声かけを行うように心がけている | 入居者名ではなく居室A、B、Cでの申し送りを継続し、トイレはカーテンではなくドアを設置している。氏名での呼称や尊敬語での声かけを励行し、入居者の表情から穏やかな暮らしが伺える。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より利用者の希望や意向を話しやすい伝えやすい雰囲気作りは行うように心がけており、自己決定を行いながらに日々過ごして頂けるように心がけている | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来る限り利用者本人のやりたい事であったり、本人のペースにあった過ごし方の提供が出来るように心がけている | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時の洋服選びは 職員と一緒に選んでもらったり、日頃から大事にしている肌の手入れ等がある方は、本人のペースで行ってもらうようにしている。また、2ヶ月に1回の訪問理美容等も希望によっては利用してもらっている | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 感染症等には配慮を行いながら、食事の際のお茶のパック詰めであったり 食事のお盆ふきであったり、食事の際に利用したエプロンを干して頂いたりしている | 系列の給食センターから配食される食事は咀嚼や嚥下状態に応じてソフトやキザミ食が用意され、惣菜数が多く、食べ残しが減っている。職員は、アクリル板の衝立越しに向き合って食事を摂る入居者の見守りや声かけをしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分の摂取量の記録等を行いながら、また毎月の体重測定も実施し必要時には栄養補助食品の摂取であったり、食事形態の変更等を行いながら支援するように心がけている | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアの実施、毎週訪問歯科診療があり、口腔ケアの指導や相談等を行いながら支援するように心がけている | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 可能な限りトイレでの排泄が出来るように働きかけるようにしており、夜間のオムツ使用者でも日中はトイレ誘導で対応するなど行いながら、排泄記録を行い排泄パターンを把握する事での失禁減になるように努めている | 個々の排泄パターンに沿って、トイレでの排泄を支援している。ポータブルトイレの使用はなく、夜間もトイレ誘導し尿取りパット交換する入居者もある。自室前のトイレに大きくトイレと掲示しているが、夜間や早朝、自室の窓際や入り口で放尿する入居者があり、鳥居マークを貼ったり物音に職員が声掛け等をしている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 主治医の意見の基、必要に応じた内服薬等の調整等は行うが、水分提供量や運動等の働きかけも同時に行っている | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 曜日の固定はあるものの、本人の希望時間やタイミングお湯の温度調整、入浴時間等は本人の希望に添えるように努めている | 週3回を目途に入浴を支援しているが、リフトの設置が困難で足浴をしながらのシャワー浴もある。同性介助の希望には男性職員数が多いことを家族に説明し、できる限り希望に添うようになっている。家族が持参した好み洗顔料やこだわりのシャンプーを使用する入居者もある。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 状況希望に応じて、午後に少し休まれたりする時間の提供であったり夜間就寝時間の希望等を配慮しながら支援を行うようにしている | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の薬事情報などは、手に届きやすいところに保管しており、服薬変更時にはチャットでの共有と共に症状の変化等も観察しチャットへ記載するようにしている | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 施設内のプランターに野菜や花を植え育てたり、図書館に行き本を借りて来るなど訪問看護のご協力もあり実施している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で今までできていなかったが、御家族の協力等で少しずつ実施出来るように支援している。 また、希望には野球観戦でペイペイドームに行くことも実施した | 法人理念に素早さ、ユニーク、学習を掲げる系列事業所の協力で、入居者5名との野球観戦が実現している。入居者の「こんな嬉しいことはない」に、次は大相撲観戦を予定していたが、クラスター発生で中止となった。運営者の意見で初詣や桜の花見は恒例とし、年始めには地域行事のだご汁会に出かける予定である。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的なのは、紛失等の原因にならないように金銭所持はしてもらわないようにしているが、中にはお金を持っていることで安心される方もおられる為高額ではないが、所持し自己管理されている方もおられる。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 出来る限り本人の希望で電話等の支援は行っている。手紙に関してはいつでも出してもらえるように支援している | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 生活空間の清潔保持と共に遮光カーテンやスクリーン等の利用や温度調整や衣類調整の支援を実施し心地よく過ごして頂けるように配慮行っている | グリーン濃淡のシンボルカラー2階建てホームは遠目でも確認できる佇まいである。玄関や階段に若き日の上皇様ご一家の写真が飾られ、壁に桜の花見などを楽しむ入居者のスナップを掲示している。ガラス張りの居間は明るく、空気清浄器が設置され、厨房前に設置されたテーブルで食事を摂り、食後職員と話し込む入居者もある。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間にソファの設置行っており、利用者同士が自由に使用し会話したり、思い思い自由に過ごしてもらうようにしている | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から使用していたなじみのある家具等の持ち込みをお願いしており、本人が戸惑いなく今までの生活の雰囲気に近い事が出来るように支援している | 毎朝居室の清掃を行い、担当職員が衣替え等を支援している。母が好きだからと、畳2枚や座椅子、和鏡台が持ち込まれ、座卓には制作中のリースが置かれるなど、居心地良い設えを家族とともに支援している。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の居室入り口に目印をつけ、また全館内手摺を設置しており安全に行き来できるようにし本人が安全に生活出来るように工夫している | | |